

つる 伸一郎 議員 (公明)



国の動向も踏まえつつ、区議会での議論とともに、区民や専門家のご意見もお聴きしながらしっかりと検討していく。

子ども・若者政策について

各会議や審議会での若者枠を設けて、子ども・若者の意義ある参画を促し、積極的に子どもや若者の意見を区政に反映する場を拡充しては。

全世代型社会保障について
区のベーシックサービスの認識と、何をベーシックサービスに位置づけるかを審議する委員会等の設置も必要と認識しているが、ご所見を。

ベーシックサービスは、本来、国において保障されるべきものではないが、一方で、基礎自治体として人々が自分らしく暮らしていく上で不可欠な生活の基礎となる行政サービスを所得制限なく全ての人に提供していくことは、「区民の幸福(しあわせ)」、ウエルビーイングな社会を実現する上で重要なもの。ご提案いただいた子ども朝の居場所づくりや朝食支援などについてもチャレンジしていきたい。また、何をベーシックサービスに位置づけるかについては、

平和施策について

音楽を通して、平和の音色を品川区からも幾重にも広げるために、被爆ピアノ平和コンサートを開催しては。

非核平和に関するパネルや動画の展示を行い、戦争の悲惨さや平和の大切さについてさらに周知・啓発をし、こうした中で、ご提案の被爆ピアノを活用したコンサートも含め、様々な機会を検討する。

高橋 しんじ 議員 (無所属)



教育について

教科書の審議で退席した教育委員が編集等に関わった教科書は令和6年の品川区の教科書に採択されたか。教科書出版社に関わり、退席を求められる人は採択する権限のある委員として適格か、委員となるのは道義的・倫理的に良いか。

教育委員の中に教科書の執筆等に関わった委員がいた。当該委員が執筆等に関わった教科書は採択された。経歴等を踏まえ、高い識見を備えており、問題ない。

区立学校全46校でエレベーター設置の学校数は。ストレッチャー対応の学校数は。非対応の学校の2階以上で急病等の発生時の体制は。改築予定の学校でストレッチャー対応のエレベーター設置予定は。23校。ストレッチャー対応は3校。

子ども・若者が主体的に参加し、意見を述べることでできる仕組みを構築するなど、形式的ではなく実質的な「意義ある参画」を実現するため、新たな会議体の設置を含め、積極的に検討を進め、年齢や発達の段階に応じて、子ども・若者が委員として区政に参画する場の拡充について検討を進める。

防犯について

10月12日に大井消防団が宮城県で全国消防操法大会に出場。特筆すべき活躍だ。都大会で優勝して全国大会に出場。全国大会8か月前から週3回、3か月前からは週5回の訓練をし、大会で優勝チームを上回るタイムを記録して敢闘賞を受賞した。

プールが屋上にあたり、体育館が地下階や2階以上であり、かつストレッチャー非対応学校は31校。教職員が担架に乗せる等、細心の注意で搬送する。ストレッチャー対応を標準として整備を進める。区立浜川中でジエンダールの観点等で7年度から標準服を一新する。生徒会が中心となり主体的に改定を進めた。この取組を区全体の学校教育でどう展開するのか。

自校生徒だけでなく、保護者や地域、今後入学する連携小学校の児童も参画したことが特筆すべき点である。区立学校全体に好事例として周知する。



その他の質問
・ 区政運営について
・ 中小企業支援施策について

松本 ときひろ 議員 (維新)



行財政改革と公民連携

少子高齢化が進む中で社会保障関係費の増大が区の課題であるとの前提の下、ボランティア活動に関わるものを除く高齢者クラブへの助成金の見直しを提起するが、区の見解を伺う。

高齢者の社会参加支援事業については、今後も限られた財源の中で創意工夫を加えながらより効果的で効率的な事業となるよう努める。

区有施設整備におけるPPP/PFI手法活用の検討状況を伺う。旧荏原第四中学校の跡地活用では、PPP/PFI手法を含め、整備・運営手法を幅広く検討している。

防火水槽を中心とした防災対策
東京消防庁と連携し防火水槽に関する情報整備を行い、防災訓練などの機会を捉えて地域の防火水槽

石田 ちひろ 議員 (共産)



女性差別撤廃へ国連から日本政府へ厳しい勧告。区が制定した条例を生かし、選択的夫婦別姓などジエンダー平等の推進を

包括的性教育をジエンダー平等推進条例に位置づけ、実施するよう求める。

条例の趣旨にのっとり、引き続き性にに関する内容を各教科等で1年生から系統的に指導していく。

あらゆる場で区民に広くアピールし、区の取組への参加を増やし、区民意識を高めていくよう求める。ジエンダー平等推進講座等を通じ、今後も広く区民意識を高められるよう取り組んでいく。

場所の周知を行うことで、地域住民が地元の防火水槽の場所を把握できるようにしていただきたい。東京消防庁が管理している防火水槽の場所は、東京消防庁の公式アプリで確認することができる。区で管理している防火水槽の場所については、今後、情報の整理を行い、分かりやすく区ホームページなどで周知できるように検討する。

防火水槽の必要性に鑑み、例えば、防火水槽設置が必要な建設事業を延べ面積二千平米以上とするよう品川区地域初期消火対策施設整備要綱を改正してはどうかと思うが、区の見解を伺う。

東京消防庁において、防火水槽の整備が計画的に行われていることから、区として要綱改正や新たな規定を策定する考えはない。

品川区のみどり安全
一定の樹齢を超えた保存樹木については、保存樹木の指定解除ないし伐採の際に地域住民と協議を行うことを規定する品川区みどりの条例の改正を提案する。

保存樹木の指定解除に当たっては、所有者に対し、地域の声を踏まえた対応をお願いするとともに、保存の継続に向けた働きかけを行う。

従来の海上ルートで1時間90回の発着ができていた 羽田新ルートは必要ない
国は羽田新ルートで1時間当たりの離着陸を90回にできると説明してきたが、実際は従来ルートでもできることが明らかになった。国の言う根拠は崩れており新ルートの必要はなくなったと考えるが、国からは、天候等に左右されず常時必要な処理容量を安定的に確保するためには新飛行ルートの運用が必要であるとの回答があった。

住民の暮らしを根こそぎ奪う巨大開発がウエルビーイングなのか
巨額の税金投入で進める品川浦周辺地区再開発は止めよ

品川浦周辺地区再開発で想定している事業費、どんな施設・建物が何棟建設予定なのかを伺う。

現在、準備組合により、まちづくり検討が進められているが、現時点では未定と聞いている。